

ほぼ満開の淡墨の下、観客を魅了した「樹魂の歌」と能狂言の  
ジョイントコンサート—本巣郡根尾村板所の淡墨公園

# 淡墨桜の生命力 おう歌



## 「樹魂の歌」コンサート 根尾村



作曲、演奏の藤掛広幸さん

【本巣】本巣郡根尾村、国指定天然記念物・淡墨桜の下で十四日夜、能狂言、シンセサイザーのジョイントコンサートが繰り広げられ、古典芸能と現代音楽の調べが千数百年の歴史を刻む淡墨桜の幹、夜露を潤うばかりに広がったかれんな花びらと重なり合い、淡墨公園に詰め掛けた約一千人の観客を魅了した。

## 能と電子音調和

### 1000人の観衆うつつとり

シンセサイザーは木末博88の淡墨大陶壁制作スタッフの音楽担当者・藤掛広幸さん(26)の作曲、演奏。大陶壁制作総合プロデューサーで日本美術院院友・伊藤嘉晃さん(向心)と陶芸家・加藤直彦さん(昌)が制作する。静の淡墨に対し、老桜をたたえ、その生命力をうたい上げた、動物のメロディーで、題して「樹魂の歌」。絵画、陶芸、音楽で県下を代表する芸術トリオが淡墨と対峙(じ)し表現した。

かがり火がたかれ夕やみが迫る大樹の前で「難波」などの能の舞が保存会(羽田利之会長)会員により演じられるうち、藤掛さんのシンセサイザーの調べが流れ、能と電子音との妙なる調和の世界が。六個の大スピーカー、二百個の照明による脈打つ生命力。淡墨、能、現代音楽が混然一



# 淡墨桜よ永遠に

# 宇野千代さん喜び満開



淡墨桜の生命力をあますところなく表現した「樹魂の歌」の発表会

## ぎふ未来博会場



「おったまげた」と大陶壁に感激もひとしおの宇野千代さん

淡墨桜(うすすみぎくら)よ、永遠に。岐阜県本巣郡根尾村に息づく樹齢千四百年で日本の巨木、淡墨桜(国天然記念物)の生命力をたたえた「樹魂の歌」発表コンサートが、三十一日夜、ぎふ中部未来博イベント広場で行われた。会場には、淡墨桜の再生に力を尽くした作家の宇野千代さん(ふじも)も駆けつけ、曲に感激していた。また、淡墨桜を描いた大陶壁に初対面した。

たくましい生命力賛歌 コンサート

作曲者の藤掛廣幸さんのシメ、力強く、美しい合唱が超ンセサイザー演奏で主婚ら二 満員の広場いっばいに響きわ百二十九人による混声二部合 たり、同会場のシンボルオブ

## 大陶壁に初対面

### 「おったまげた」を連発

シエ、高さ九尺、幅二十二尺の「淡墨桜・大陶壁」に花を添えた。この日、大陶壁を初めて見た宇野さんは「おったまげたおったまげた」を連発。「初め和服姿。淡墨桜のたくましい生命力を表現したコンサートでなんとか生かしたかった。に、何度もうなずきながら感激して膝き入っていた。宇野さんは十八年前に初めて私の前に現れ、こんなうれしいことはない。この淡墨桜のように、いつまでも、たくましく仕事を続けていきたい」と感激していた。

コンサートが無事に終了したンセサイザーの藤掛廣幸さんは、宇野さんの「生命力あふれる淡墨桜のイメージぴったり」という賞辞に大きくうなずいて「この曲は私も燃えた作品。淡墨桜の生命力の美しさを愛し続けてきた宇野さんに感謝していたら、大変うれしい」と語っていた。

て根尾村を訪れ、枯死寸前の淡墨桜を助けるため当時の平野岐早県知事に陳情したりして努力。そのかいあって、何度かの枯死の危機を乗り越え、毎年春になると優美な花を咲かせている。また、小説